

ごあいさつ

「明日の光へ向けて、私たちができること」

第 62 回全国肢体不自由児療育研究大会を担当いたします、佐賀整肢学園こども発達医療センターひまわり園を代表してご挨拶申し上げます。

昨年横浜にて町田会長のもと神奈川県立こども医療センターのお世話で第 61 回大会が大成功のうちに終了したことに立ち合いとても感動しました。その一方、鄙びたことに関しては我が国で代表格の県である佐賀で本研究会を翌年開催して果たしてどのくらい演題応募をいただけるのか、大変に心配しておりました。幸いにも、全国から 81 題にも及ぶ演題応募がありました。いずれも立派な内容であり 81 題すべて口演発表していただくことにしました。発表者の皆さまにはどうぞよろしく願いいたします。

本大会のテーマは「明日の光へ向けて、私たちができること」といたしました。児童福祉法の改正を経て、肢体不自由児施設は医療型障害児入所施設に法律上は生まれ変わり、重症心身障害児施設と合体することとなって数年が経過しました。障害を有するこども達をお世話することで、肢体不自由児も重症心身障害児も変わらないことは当然ですが、肢体不自由児を長年にわたり支えてきた肢体不自由児施設には、これらこども達に対する貴重な経験の蓄積があります。医療型障害児入所施設の中で、この経験をどう活かし今後伝えていくのかは大切な課題だと考えています。この思いをテーマの言葉に重ねております。佐賀の本会に参加される皆さまが、この思いをわずかでも感じてくだされば研究会開催の意義があります。

本大会では、特別講演 1 題、一つのシンポジウム、教育講演 2 題を企画しています。特別講演は、JCHO 湯河原病院院長の高取吉雄先生に「手足の不自由な児童に自活の道を - 三人の夢」と題して肢体不自由児療育の先駆者に焦点を当て歴史に学ぶ講演をいただきます。先人の偉業を知るよい機会となることでしょう。シンポジウムはティーボールに関する話題です。ティーボールとは、1988 年に国際野球連盟と国際ソフトボール連盟が協力して考案したピッチャーのいない野球に似た球技です。2011 年より西日本を中心とした肢体不自由児施設が集まり交歓大会（星野仙一杯争奪）を開いています。肢体不自由児ならではのスポーツの話題を通して、本大会のテーマに触れていただきたいと思います。この企画は旭川療育園副園長・堀野宏樹先生のお力を得て実現しました。教育講演 1 は、からつ医療福祉センター院長（前佐大小児科教授）濱崎雄平先生に「アレルギー疾患にどう対応するか - 心身障害児・者で注意すべきことを含めて-」という演題でライフワークの一つであるアレルギーに関連する講演をお願いしました。また、教育講演 2 は、佐賀大学医学部福祉健康科学部准教授の松尾

清美先生に「肢体不自由児の社会参加実現に向けたリハビリテーション医学における自立（律）支援」の講演をお願いしています。ご自身が車いす利用者という目線から紡ぎ出されるさまざまな提言は、目から鱗の連続となることでしょう。81題の一般演題とともに今後の療育の参考にしていただければ幸いです。

最後に一つ、本会終了の翌日10月21日（土）に同じ会場で開催される第34回日本脳性麻痺の外科研究会（北九州市立総合療育センター所長・松尾圭介会長）への参加もよろしくお願ひします。

それでは10月19日の開会式をお待ちしています。多くの皆さまの参加を期待しております。

第62回全国肢体不自由児療育研究大会会長
佐賀整肢学園こども発達医療センターひまわり園
センター長 窪田 秀明